# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 263 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | A | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 土地改良事業 | | | | | 計画 | おおたわら国造りプラン | |
| 担当名 | 部名 | 課名 | 係名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 農村整備係 | | | 政策 | 政策3 次代につなぐ賑わいを創生する、魅力と活力あふれる産業のまちづくり | 3 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (16)農業の振興 | 16 |
| | 一般会計 | 06.01.06 | 184 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | □単年度 ■複数年度 | | | | | ( ～ 年度 ) | | |

## 2. 計画(Plan)　A

| | | |
|---|---|---|
| (1) 計画内容 | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>市が管理する農業用施設の維持管理、土地改良区の運営及び事業への支援、補助金交付 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>農業農村整備事業を活用し、当市の農地及び農業用施設の整備と、市内土地改良区の健全且つ長期的な維持管理への支援を行うことで、当市の良好な農村環境の維持に努める。 |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>農業農村整備事業実施地区への補助金交付(農地耕作条件改善事業、県単独農業農村整備事業)<br>市管理施設の維持管理 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>土地改良事業により改善された農地及び農業用施設に対して補助事業を活用することで将来に向けて健全な機能を保ち、担い手へ農地集積拡大の促進と安定的且つ持続可能な農地利用に繋げる。 |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ①対象となる組織数 | 県単独農業農村整備事業 | 4 | 地区 |
| | | | ②対象となる組織数 | 農地耕作条件改善事業 | 2 | 地区 |
| | | | ③ | | | |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ①対象となる組織数 | 補助金等交付決定地区 | 6 | 地区 |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |

## 3. 実行 (Do)

| | |
|---|---|
| (1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | 農業農村整備事業を活用し、当市の農地及び農業用施設の整備と、市内土地改良区の健全且つ長期的な維持管理への支援を行うことで、当市の良好な農村環境の維持に努める。 |
| (2)備考 | 県単独農業農村整備事業。農地耕作条件改善事業、市単独土地改良事業等 |

| (3) コスト計算 | 内容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 63,985 | 69,035 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 107.89% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 16 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 4 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 4 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 対象となる組織数 | 4 | 地区 | 4 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | a |
| | ② 対象となる組織数 | 2 | 地区 | 2 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | |
| | ③ | | | | 1 | 増加指標 | | % | | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 対象となる組織数 | 6 | 地区 | 6 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | a |
| | ② | | | | | | | % | | |
| | ③ | | | | | | | % | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | 土地改良区等が行う事業への支援を通じて、農地及び農業用施設の早期整備及び健全な維持管理に努め、市内農業者の安定的な経営に資する。 | |
| | 前年度からの改善結果 | 改善した | 各土地改良事業について、予算を確保し、補助金等の交付を行った。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | A | A | 各農業施設等の老朽化等により更新や修繕の必要があるものについて、予算の範囲内で各事業で対応を行った。 |

## 5.今後の取組に向けて(Act)

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | 市内の農業者の農業経営について、高齢化による農業後継者の減少のほか、農業機械、農業資材、肥料や電気料金など様々な経費の高騰が大きな負担となっている。 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | 土地改良区等が行う事業への支援を通じて、農地及び農業用施設の早期整備及び健全な維持管理に努め、市内農業者の安定的な経営に資する。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | 土地改良区等からの要望で、内容にあった補助金を交付することにより、各改良区等が老朽化や故障してしまった農業施設の改修、修繕を行えた。 |

# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 124 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | B | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| 事務事業名 | 農道整備事業 | | | | | 計 画 | おおたわら国造りプラン | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担 当 名 | 部 名 | 課 名 | 係 名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 農村整備係 | | | 政策 | 政策3 次代につなぐ賑わいを創生する、魅力と活力あふれる産業のまちづくり | 3 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (16)農業の振興 | 16 |
| | 一般会計 | 06.01.06 | 186 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | ■単年度 □複数年度 | | | | | ( ～ 年度 ) | | |

## 2. 計画(Plan)

| | | |
|---|---|---|
| (1) 計画内容 | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>圃場整備事業により造成された未舗装の農道。 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>農道を舗装し農作物を安全且つ効率的に搬送ができる環境を整備することで、土地利用型園芸作物の普及促進に寄与する。 |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>地元要望を参考としながらも、農道整備事業の事業採択要件に合った投資効果の高い路線を選定し、計画的に舗装工事に取組む。 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>農作物の荷痛みの原因となる未舗装道路が減少することで、農作業の時間短縮や品質向上などに寄与し、担い手及び農村地域の経済の活性化が図られる。 |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ① 国庫補助事業農道舗装整備 | | 590 | m |
| | | | ② 市単独農道舗装整備 | | 200 | m |
| | | | ③ | | | |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ① 令和7年度末整備目標農道延長 | | 790 | m |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |

## 3. 実行 (Do)

| | |
|---|---|
| (1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | 圃場整備事業実施済地区内の農道が砂利道のため、未舗装の農道を舗装することで農作業の効率化や農作物の荷痛みを防止し、高収益作物の推進及び担い手への集積を進める。 |
| (2)備考 | 団体営農地耕作条件改善事業(国庫補助事業) |

| (3) コスト計算 | 内 容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 45,437 | 49,025 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 107.90% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 16 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 4 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 4 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 国庫補助事業農道舗装整備 | 590 | m | 556 | 1 | 増加指標 | 94.20 | % | a | a |
| | ② 市単独農道舗装整備 | 200 | m | 376 | 1 | 増加指標 | 188.00 | % | a | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | a | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 令和7年度未整備目標農道延長 | 790 | m | 932 | 1 | 増加指標 | 118.00 | % | a | a |
| | ② | | | | | 算定不可 | | % | a | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | a | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | 本事業は、市長協議を経て年度計画に沿って実施していることから、国の予算の充当率に左右される部分はあるが、予算範囲内において計画通り実施することができる。 | |
| | 前年度からの改善結果 | 改善した | 必要な事業費の確保に努めた。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | A | A | 農道整備に必要な事業費が確保され、また、年度内完了により供用開始された。<br>利用度の高い路線を整備したことにより、地区内の営農効率の向上に寄与している。 |

## 5.今後の取組に向けて(Act)

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | 国庫補助事業で実施するため当初予算の割当により、計画どおりの事業が実施できないことがある。 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | 年度当初に市長協議を経て次年度の事業要望を行い予算確保に努めている。しかし、実施要望に対し国の予算割当が満額確保が社会情勢により左右される部分はあるが、予算範囲内で実施する。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | 土地改良事業で整備された各地区農道の利用度が高い路線が舗装されたことにより、営農の更なる効果が期待される。事業執行に関して、補助金確保をはじめとし、工事の監督管理についても課内で適切に執行した。 |

# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 新 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | A | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| 事務事業名 | 県営土地改良事業 | | | | | 計画 | おおたわら国造りプラン | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当名 | 部名 | 課名 | 係名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 農村整備係 | | | 政策 | 政策3 次代につなぐ賑わいを創生する、魅力と活力あふれる産業のまちづくり | 3 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (16)農業の振興 | 16 |
| | 一般会計 | 06.01.06 | 187 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | □単年度 ■複数年度 | | | | | ( ～ 年度 ) | | |

## 2. 計画(Plan)

| | | |
|---|---|---|
| (1) 計画内容 | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>県が実施する農業農村整備事業<br>・圃場整備事業実施中の5地区(荒井町島、中田原、練貫、倉骨、鴨内川)及び関連事業<br>・圃場整備事業実施に向け推進している3地区(高野・上ノ原、赤瀬台鹿畑、南金丸南部)<br>・県営基幹水利施設関連事業等 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>県営圃場整備実施のため調査計画(農地現状、担い手、権利等の調査)を進めて栃木県営圃場整備事業の実施につなぎ農地整備をすすめ、基盤強化された農地及び農業用施設の利便性と地区担い手を確保し、地区全体の営農環境改善を支援する。<br>別に、市内農地に受益地がある県営水利施設において、適切な維持管理費の負担をする。 |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>・県営土地改良事業及び県営調査計画事業に対する負担金支出<br>・調査計画及び採択に必要な地形図作成や換地等調整事業等の実施<br>・県営圃場整備事業に付随して実施する農地集積促進事業費の負担金 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>土地改良事業により改善された農地及び農業用施設を活用することで、担い手へ農地集積拡大の促進と安定的且つ持続可能な農地利用が確保され、地域農業全体の生産基盤強化が図られる。 |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ①対象となる組織数 | 調査計画事業取組実施地区 / 取組目標地区 | 3 | 地区 |
| | | | ②対象となる組織数 | 県営農地整備事業取組地区 / 取組目標地区 | 5 | 地区 |
| | | | ③調査計画事業(事業費ベース) | 執行累計費 / 調査計画実施事業費総額 | 47 | % |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ①県営農地整備事業(事業費ベース) | 執行累計費 / 調査計画実施事業費総額 | 41 | % |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |

## 3. 実行 (Do)

| | |
|---|---|
| (1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | 平成29年度から荒井町島地区、平成30年度から下深田地区、令和元年度から中田原地区、令和5年度から練貫地区、令和6年度から倉骨地区、令和7年度から親園鴨内川地区が事業実施している。<br>荒井町島地区は換地処分に向けて調整を進める。中田原地区は、補完工事を行う。練貫地区及び倉骨地区は、今年度から面工事に着手する。親園鴨内川地区は換地計画原案作成を行う。 |
| (2)備考 | 圃場整備実施地区<br>荒井町島地区 61ha(H29-R8) 中田原地区 35ha(R 1-R9)<br>練貫地区 84ha(R5-R11) 倉骨地区 46ha(R6-R12)<br>親園鴨内川地区 73ha(R7-R16)<br>圃場整備推進地区<br>高野・上ノ原地区 12ha 赤瀬台鹿畑地区 43ha<br>南金丸南部地区 51ha |

| (3) コスト計算 | 内容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 72,541 | 16,957 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 23.38% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 16 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 4 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 4 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 対象となる組織数 | 3 | 地区 | 3 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | b |
| | ② 対象となる組織数 | 5 | 地区 | 5 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | |
| | ③ 調査計画事業(事業費ベース) | 47 | % | 42 | 1 | 増加指標 | 89.40 | % | b | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 県営農地整備事業(事業費ベース) | 41 | % | 40 | 1 | 増加指標 | 97.60 | % | a | a |
| | ② | | | | | | | % | | |
| | ③ | | | | | | | % | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | | 各地区の地理的・地域的条件などの実情に合わせながら、諸課題の的確な把握と解決に向けた支援をおこない、事業の円滑な進行を確保する。<br>親園鴨内川地区は令和6年度末の法手続き完了を目標とする。赤瀬台鹿畑地区と、湯津上高野・上ノ原(こうや・うえのはら)地区の要望に対しては、実施要件や担い手確保に向けた検討・推進を進め、調査計画を実施していく。 |
| | 前年度からの改善結果 | 改善した | 各地区の課題等の解決に対して県や地元と協力し、事業の円滑な進行のための支援を行った。親園鴨内川地区は令和7年4月に事業計画決定になり、令和7年度から圃場整備事業を開始した。赤瀬台鹿畑地区、及び高野・上ノ原地区は調査計画を進め、令和11年度末の事業採択を目標とする。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | A | A | 荒井・町島地区はじめ既に圃場整備事業を実施する5地区においては概ね計画的に実施された。<br>圃場整備事業を推進している3地区においても取り組み一定区域や担い手を選定作業を進めており、今後も積極的に事業推進が図られていく見込みである。 |

## 5.今後の取組に向けて(Act)

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | 調査計画地区においては、地権者の参加同意率向上や未相続地の解消など地元推進協議会が中心に活動する必要があるため、市も支援していく必要がある。<br>練貫地区の地区界確定業務において県外地権者が多く確認作業が遅れており、令和6年度に一部繰越されている。早期完了と換地原案作成業務へ早期移行し、当初スケジュールに基づいた進行が求められている。 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | 各地区の地理的・地域的条件などの実情に合わせながら、諸課題の的確な把握と解決に向けた支援をおこない、事業の円滑な進行を確保する。<br>赤瀬台鹿畑地区と、湯津上高野・上ノ原(こうや・うえのはら)地区及び南金丸南部地区の要望に対しては、実施要件や担い手確保に向けた検討・推進を進め、調査計画を実施していく。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | 実施中の6地区(荒井町島、下深田、中田原、練貫、倉骨、練貫)は、栃木県営圃場整備事業として計画的に実施されており、また親園鴨内川地区においても令和7年度から県営事業化となり計画的に進んでいる。後続地区(赤瀬台鹿畑、高野上ノ原)においても計画樹立を目標に調査事業が進められており、評価は良好と判断する。 |

# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 7 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | B | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| 事務事業名 | 多面的機能支払交付金事業 | | | | | 計画 | おおたわら国造りプラン | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当名 | 部名 | 課名 | 係名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 農村環境対策係 | | | 政策 | 政策1　豊かな自然と調和する、安らぎある快適な環境のまちづくり | 1 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (2)自然環境の保全 | 2 |
| | 一般会計 | 06.01.06 | 774 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | □単年度　■複数年度 | | | | | （　令和6　～　令和10　年度　） | | |

## 2. 計画(Plan)

| (1) 計画内容 | | |
|---|---|---|
| | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>農家及び非農業者、自治会等で構成された地域ぐるみの活動組織 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>地域全体で、農地・農業用水等の資源や農村環境の保全と質的向上を図る。 |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>農家だけでなく非農家も含めた地域ぐるみの共同活動・向上活動に対する指導・助言及び交付金の交付 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>農村環境の基盤となる農地・農業用水等の保全向上と、農業の有する多面的機能の維持・増進が図られる。 |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ①研修会開催回数 | 実務及び実技研修会の開催 | 1 | 回 |
| | | | ②交付金交付件数 | 申請から実績報告の確認・指導・書類提出依頼 | 52 | 件 |
| | | | ③ | | | |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ①中間・現地・実績確認検査参加者数 | 52組織×各4回 | 208 | 人 |
| | | | ②活動組織数 | | 52 | 組織 |
| | | | ③ | | | |

## 3. 実行 （Do）

| (1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | 市内52の活動組織において、農用地、水路、農道等の維持管理を中心に簡易的な施設の補修などを共同作業によって各組織が事業を進めることができた。資源向上活動を行う組織においては、休耕田を活用し花の植栽により景観を形成する、文化継承を通じてコミュニティを強化する、そばを栽培して地域の住民に振舞うなど、それぞれの活動組織が工夫した取組みの実施により地域コミュニティの維持増進も活発に行われた。 |
|---|---|
| (2)備考 | |

| (3) コスト計算 | 内容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 241,304 | 244,345 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 101.26% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 15 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 3 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 4 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 研修会開催回数 | 1 | 回 | 1 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | a |
| | ② 交付金交付件数 | 52 | 件 | 52 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 中間・現地・実績確認検査参加者数 | 208 | 人 | 208 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | a |
| | ② 活動組織数 | 52 | 組織 | 52 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | | 県内、全国でも同様の事業が実施されているので、さまざまなアイデアあふれる活動を調査研究し、大田原市の活動組織にフィードバックしていきたい。 |
| | 前年度からの改善結果 | 改善した | 令和7年度の総会時に、小水力発電の取組について事例発表を実施した。また、田んぼダムの取組についても普及啓発を行った。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | A | A | 市内52の活動組織において、適正に農用地、水路、農道等の保全と維持管理を図ることができている。<br>遊休地の発生を抑制し農村環境の保全や地域コミュニティの維持に貢献することができた。また、活動組織向けに事務研修会を実施し、農業者の人口減少や高齢化が進む中での事務作業の効率化を推進した。 |

## 5.今後の取組に向けて（Act）

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | (1)大部分の活動組織は令和6年度において活動期間を継続したものの、後継者の確保や取組の維持といった課題を抱えている。<br>(2)農業者人口の減少もあり、活動組織の後継者不足は避けて通れない課題である。<br>(3)事務処理について支援が必要と思われる活動組織も見受けられるため、市協議会への事務委託の推奨や情報提供を継続していきたい。<br>(4)田んぼダムの取り組みについての普及啓発 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | (1)広域化や事務委託の推進と情報提供等の支援の実施。<br>(2)他自治体の活動組織の先進事例や取組等の調査及び活動組織への情報提供の実施。<br>(3)委託をしていない活動組織に対しては、積極的に事務委託への切り替えを推奨する。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | より一層、組織への助言指導を強化する他、田んぼダムの取組組織の増加を目指す。 |

# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 新 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | A | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| 事務事業名 | 地方創生道整備推進交付金事業 | | | | | 計 画 | おおたわら国造りプラン | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担 当 名 | 部 名 | 課 名 | 係 名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 農村整備係 | | | 政策 | 政策3 次代につなぐ賑わいを創生する、魅力と活力あふれる産業のまちづくり | 3 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (16)農業の振興 | 16 |
| | 一般会計 | 06.01.06 | 953 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | □単年度 ■複数年度 | | | | | ( R6 ～ R10 年度 ) | | |

## 2. 計画(Plan)

| | | |
|---|---|---|
| (1) 計画内容 | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>広域農道環状1号線、舗装修繕による保全対策 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>農産物や加工品の品質低下を防ぐとともに安全かつ効率的な輸送を確保し、加えて国道、県道との連携による地域内交通ネットワークの拡充を通じて地域特性を活かした観光の振興を促進する。 |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>地域再生計画「那須野が原扇状地の豊かな自然と調和する、安らぎのある快活な環境のまちづくり計画」に基づき、地方創生道整備推進交付金を活用する。 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>安全に大型機械の搬送が可能となるため、広範囲な担い手の確保により農業の生産性向上が図られ、併せて農産物や加工品の品質低下を防ぐなど、輸送の効率化・生活環境の改善が見込まれる。また、新規就農者の支援や農業の活性化とともに農産物流通の効率化により観光客数の増加も見込む。 |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ①農道整備延長 | | 590 | |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ①令和7年度末整備計画延長 | 令和10年度末2,345m完了 | 590 | |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |

## 3. 実行 (Do)

| | |
|---|---|
| (1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | 整備対象区間の詳細設計及び農道舗装工事を実施し、農作物の運搬時の障害解消を図っていく。 |
| (2)備考 | 大田原地域流通・耕作条件整備計画<br>整備期間 :令和6年度から令和10年度<br>総事業費 :284,000千円<br>整備延長 :2,345m(W=10.0m) |

| (3) コスト計算 | 内 容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 9,944 | 85,000 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 854.79% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 16 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 4 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 4 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 農道整備延長 | 590 | | 741 | 1 | 増加指標 | 125.60 | % | a | a |
| | ② | | | | | 算定不可 | | % | a | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | a | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 令和7年度末整備計画延長 | 590 | | 741 | 1 | 増加指標 | 125.60 | % | a | a |
| | ② | | | | | 算定不可 | | % | a | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | a | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | 本事業は、国の予算の充当率に左右される部分はあるが、予算範囲内において計画通り実施することができる。 | |
| | 前年度からの改善結果 | 改善した | 必要な事業費の確保に努めた。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | A | A | 舗装修繕に必要な事業費を確保し利用度の高い路線を整備したことにより、農業の生産性向上、輸送の効率化・生活環境の改善が図られた。 |

## 5.今後の取組に向けて(Act)

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | 国庫補助事業で実施するため当初予算の割当により、計画どおりの事業が実施できないことがある。 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | 国に対し予算確保に努めているが、社会情勢により予算の満額確保が左右される部分があるため、予算の範囲内で実施する。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | 広域農道環状1号線の舗装修繕工事については、農林整備課が国庫補助事業として交付金を確保し、道路課が受委託により工事を実施しているが、利用度の高い路線を整備したことにより営農の更なる効果が期待される。<br>今後の事業執行に関しては、引き続き補助金確保に努め、道路課と連携して工事の工期内完了など監督管理についても適切に執行していく。 |

# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 129 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | B | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| 事務事業名 | 市有林管理事業 | | | | | 計画 | おおたわら国造りプラン | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当名 | 部名 | 課名 | 係名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 林業振興係 | | | 政策 | 政策3 次代につなぐ賑わいを創生する、魅力と活力あふれる産業のまちづくり | 3 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (17)林業の振興 | 17 |
| | 一般会計 | 06.02.01 | 193 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | □単年度 □複数年度 | | | | | ( ～ 年度 ) | | |

## 2. 計画(Plan)

| | | |
|---|---|---|
| (1) 計画内容 | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>市有林及び分収造林 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>間伐や下刈り等により、市有林及び分収造林の適正な保全管理を行うとともに、伐期を迎えた立木を計画的に伐採・販売することで、適正な森林資源の循環活用を図る。 |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>森林経営に必要な作業全般(立木の伐採、造林、保育その他の森林施業及び販売方針の作成、並びに森林の保護に関する事項)を、委託先である大田原市森林組合が行う。 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>森林資源の循環活用を図ることで、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止など、多面的な機能を有する森林環境の健全で持続的な保全に繋がる。 |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ① 下刈り等管理面積 | | 15 | ha |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ① 災害の無い市有林 | | 14 | 箇所 |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |

## 3. 実行 (Do)

| | |
|---|---|
| (1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | 市有林(中山(北野上)・堀之内(黒羽運動公園)・上の山(山の手2丁目)・牛首利(鹿畑)、花塚(佐久山)・新廟所(佐久山)・荻野目(荻野目)・山王(福原))の下刈を実施し、適正な管理を行った。<br>また、素材生産業務として、中山地区の市有林4.37haの皆伐と9.92haの間伐を実施することで、森林資源の循環活用及び適切な林内環境の整備を行った。 |
| (2)備考 | |

| (3) コスト計算 | 内容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 59,560 | 100,640 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 168.97% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 16 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 4 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 4 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 下刈り等管理面積 | 15 | ha | 10 | 1 | 増加指標 | 66.70 | % | c | c |
| | ② | | | | | 算定不可 | | % | | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 災害の無い市有林 | 14 | 箇所 | 14 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | a |
| | ② | | | | | 算定不可 | | % | | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | 引き続き営林委員会と森林組合の意見を参考に、適正な森林環境の保全に努める。<br>市内民有林への活用も視野に、市有林におけるリモートセンシングデータの活用を検討する。 | |
| | 前年度からの改善結果 | 改善した | 営林委員会を開催し、委員の意見を参考に今後の整備計画(案)を決定した。<br>栃木県のリモートセンシングデータを参考に、市有林管理業務の受託者と中山地区の状況を確認し、整備計画の参考とした。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | A | A | 豊富な知識と経験を有する大田原市森林組合に委託することに加え、営林委員会から意見を聴取することで、森林の状況に応じた最適な施業を実施し、健全な森林環境の維持保全に取り組むことができた。栃木県のリモートセンシングデータを活用することで、迅速な市有林の林況確認を実施することができた。 |

## 5.今後の取組に向けて(Act)

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | 令和10年度をもって市有林中山地区の伐採が完了する予定のため、次期伐採計画の検討を要する。 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | 営林委員会及び森林組合の意見を参考に次期伐採計画を検討し、引き続き適正な森林環境の保全に取り組んでいく。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | 営林委員会の意見を踏まえ、森林組合に管理委託することで市有林が適切に管理できている。<br>令和10年度をもって市有林中山地区の伐採が完了する予定であるため、営林委員会及び大田原市森林組合等の専門的知見を交えながら、速やかに次期伐採計画の策定に向けた検討を進める必要がある。 |

# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 131 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | B | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| 事務事業名 | 林道維持管理事業 | | | | | 計 画 | おおたわら国造りプラン | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担 当 名 | 部 名 | 課 名 | 係 名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 林業振興係 | | | 政策 | 政策3 次代につなぐ賑わいを創生する、魅力と活力あふれる産業のまちづくり | 3 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (17)林業の振興 | 17 |
| | 一般会計 | 06.02.01 | 733 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | □単年度 □複数年度 | | | | | ( ～ 年度 ) | | |

## 2. 計画(Plan)

| | | |
|---|---|---|
| (1) 計画内容 | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>管理林道 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>森林整備、林業の振興のための基盤施設であるとともに、山村地域の生活道としても重要な役割を果たしている林道を適切に維持管理する。 |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>定期的な巡回を実施し、必要に応じ修繕、草刈、除雪等を実施する。 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>市管理林道を安全に通行できるようにする。 |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ①巡回 | | 12 | 回 |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ①林道無事故日数 | | 365 | 日 |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |

## 3. 実行 (Do)

| | |
|---|---|
| (1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | 異常気象時以外にも月1回を目途に定期的なパトロールを実施した。<br>見通し確保のため路肩の草刈りを実施した。<br>路面及び路肩の修繕など必要に応じ適宜実施した。 |
| (2)備考 | |

| (3) コスト計算 | 内 容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 12,574 | 36,204 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 287.93% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 16 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 4 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 4 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 巡回 | 12 | 回 | 12 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | a |
| | ② | | | | 1 | 増加指標 | | % | | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 林道無事故日数 | 365 | 日 | 365 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | a |
| | ② | | | | | 算定不可 | | % | | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | 定期的な巡回により、路線の状況を的確に把握し、危険個所の早期修復に努める。 | |
| | 前年度からの改善結果 | 改善した | 異常気象時に加え定期的な巡回を実施したことで、路線ごとの状況を的確に把握することができた。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | A | A | 活動及び成果指標ともに掲げた目標値は全て達成した。<br>林道が安全に通行できるよう維持管理していくための有効な事業である。 |

## 5.今後の取組に向けて(Act)

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | 開設から20年以上経過している林道については、経年劣化により路面や構造物の破損が多くなることが懸念される。<br>林道の維持管理に精通した職員の配置又は育成を検討する必要がある。 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | 林道各路線において中長期的な維持管理を継続できるよう、今後も適宜巡回を行い、現地の状況把握に努めていく。<br>巡回を主とした日常的な維持管理の民間委託を検討する。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | 定期的かつ継続的な巡回は林道施設の早期補修に繋がっており、管理が適切に実施されていると評価できる。<br>多くの林道は開設から20年以上が経過しているため、今後も定期的な巡回が必要である。 |

# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 132 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | B | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | とちぎの元気な森づくり市町村交付金事業 | | | | | 計 画 | おおたわら国造りプラン | |
| 担 当 名 | 部 名 | 課 名 | 係 名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 林業振興係 | | | 政策 | 政策1 豊かな自然と調和する、安らぎある快適な環境のまちづくり | 1 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (2)自然環境の保全 | 2 |
| | 一般会計 | 06.02.01 | 782 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | □単年度 ■複数年度 | | | | | ( 平成30 ～ 令和9 年度 ) | | |

## 2. 計画(Plan)

| | | |
|---|---|---|
| (1) 計画内容 | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>野生獣が発生する恐れのある田畑の周辺や通学路に隣接している森林 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>里山林の価値を活かした整備や、住宅地や通学路周辺の安全・安心確保、野生獣を人里に近付けないようにするための里山林整備を支援 |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>森林の藪払いをおこない、見通しを良くすることで緩衝帯の機能を持たせ、野生獣が人里に進入するのを防ぐため活動する団体に対して活動に係る経費の補助(5年が上限)を行う。 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>農作物の被害を軽減したり、通学路の整備により生徒の安全が図れる |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ①活動団体の協力 | | 16 | 団体 |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ①実施面積 | | 205 | ha |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |

## 3. 実行 (Do)

| | |
|---|---|
| (1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | 令和5年度に制度の見直しが行われ、過去に里山整備をした箇所でも令和9年度まで管理事業として50千円/haの交付金が受けられるようになり、令和4年度までと同様に事業が継続できる。<br>市内の里山や通学路に隣接する山林191haにおいて、下刈りや枯損木の伐採撤去等を行った。 |
| (2)備考 | このとちぎの元気な森づくり県民税事業は第2期にあたり、R9年に終期を迎える。R8年度にあり方検討会を実施し、年度内に方針を決定予定である。 |

| (3) コスト計算 | 内 容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 9,545 | 11,914 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 124.82% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 16 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 4 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 4 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 活動団体の協力 | 16 | 団体 | 14 | 1 | 増加指標 | 87.50 | % | b | b |
| | ② | | | | | 算定不可 | | % | | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 実施面積 | 205 | ha | 191 | 1 | 増加指標 | 93.20 | % | a | a |
| | ② | | | | | 算定不可 | | % | | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | 事業が適正に行われるように指導を行う。<br>また、森林の所有者負担の軽減が図れることから、地域の意向があれば新規の事業地も選定する。 | |
| | 前年度からの改善結果 | 検討中 | ・机上での職類審査に加え、現地での確認検査を実施し、事業の適正な実施について指導した。<br>・広報紙等を通じて、広く活動団体の募集を行った。<br>・既存の活動団体に、活動面積の拡大を打診した。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | A | A | ・現地での確認検査を通し、具体的な活動内容について分かりやすく指導することができた。<br>・新規団体を立ち上げることはできなかったものの、本事業について広く周知することができた。 |

## 5.今後の取組に向けて(Act)

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | ・構成員の高齢化が進行しており、今後の活動縮小や団体の解散が懸念される。<br>・県補助金は令和9年度で終了することから、その後も継続した市の財政支援を行うべきか検討を要す。 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | ・広報等を活用した新規地区の掘り起こしを行う。<br>・県補助金の継続の可否について情報収集に努め、廃止になる場合は代替の財源として森林環境譲与税の活用を検討する。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | 民家や農地周辺の下刈り等が行われ、里山の景観保全に寄与していると評価できる。<br>構成員の高齢化等による活動縮小や団体解散を防ぐため、広報等を活用して新規地区や後継の掘り起こしを強化する必要がある。<br>県補助金が令和9年度で終期を迎えることを見据え、継続的な支援のあり方について情報収集に努めるとともに、代替財源として森林環境譲与税の活用等を含めた検討を進める必要がある。 |

# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 8 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | B | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| 事務事業名 | 有害鳥獣対策事業 | | | | | 計画 | おおたわら国造りプラン | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当名 | 部名 | 課名 | 係名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 農村環境対策係 | | | 政策 | 政策1　豊かな自然と調和する、安らぎある快適な環境のまちづくり | 1 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (2)自然環境の保全 | 2 |
| | 一般会計 | 06.02.01 | 872 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | ■単年度　□複数年度 | | | | | （　令和9　～　令和9　年度　） | | |

## 2. 計画(Plan)

| (1) 計画内容 | | |
|---|---|---|
| | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>金田・親園・野崎・佐久山・湯津上・黒羽・川西・両郷・須賀川地区の農作物生産者 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>野生鳥獣による農作物への被害対策として |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>市及び各自治会が主体となり、国、県、市の補助制度により防除、駆除活動を支援 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>野生鳥獣による農作物被害が減少する。 |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ① | 有害鳥獣の捕獲・駆除(イノシシ) | 捕獲駆除実績 | 250 | 頭 |
| | | | ② | 有害鳥獣の捕獲・駆除(鳥類) | 捕獲駆除実績 | 600 | 羽 |
| | | | ③ | 有害鳥獣被害対策の啓発 | 広報活動等(広報・HP記事掲載) | 2 | 回 |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ① | 農作物被害金額の減少 | 被害アンケート調査 | 10,000 | 千円 |
| | | | ② | 防護柵等補助金の交付 | 受付件数 | 30 | 件 |
| | | | ③ | | | | |

## 3. 実行 （Do）

| (1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | 豚熱の影響により減少していたイノシシの捕獲数が令和4年度より徐々に増加し、令和6年度には259頭捕獲されたが、令和7年度では130頭の捕獲となり前年度比50%減となっている。捕獲頭数に比例して農作物への被害も減少しており、令和7年度は被害額目標値より158千円少なくなった。毎年5月に実施している鳥類の駆除については、地元猟友会協力のもと20日間の捕獲期間を設け、捕獲数は昨年度より73羽上回る結果であった。令和6年度は、サギ捕獲強化として、4月と6月に捕獲を実施したが、令和7年度には実施しなかったため、令和6年度と比較すると鳥類の総捕獲数は減少している。ハクビシンは、実施隊、個人ともに捕獲頭数が減り、令和6年度から10頭減った。アライグマの捕獲頭数については令和6年度から6頭増加した12頭捕獲している。タヌキは令和7年度で21頭捕獲し、令和6度より25頭減少している。また、ニホンジカは令和6年度に1頭捕獲されていたが、令和7年度では4頭捕獲した。 |
|---|---|
| (2)備考 | |

| (3) コスト計算 | 内容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 8,456 | 10,365 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 122.58% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 15 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 4 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 3 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 有害鳥獣の捕獲・駆除(イノシシ) | 250 | 頭 | 130 | 1 | 増加指標 | 52.00 | % | d | d |
| | ② 有害鳥獣の捕獲・駆除(鳥類) | 600 | 羽 | 721 | 1 | 増加指標 | 120.20 | % | a | |
| | ③ 有害鳥獣被害対策の啓発 | 2 | 回 | 2 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 農作物被害金額の減少 | 10,000 | 千円 | 9,842 | 2 | 減少指標 | 100.00 | % | a | d |
| | ② 防護柵等補助金の交付 | 30 | 件 | 15 | 1 | 増加指標 | 50.00 | % | d | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | 豚熱の蔓延により、野生イノシシの活動が停滞しているが、引き続き生息状況に注視し対策を講じていく。また、ハクビシンやアライグマの被害についても効率的な捕獲駆除ができるように調査研究を進めていく。 | |
| | 前年度からの改善結果 | 改善した | 豚熱の影響又は生息数の減少なのか黒羽地区におけるイノシシ捕獲数が減少し被害額も減少した。<br>また、ハクビシンやアライグマについては、箱罠の貸し出しや実施隊による駆除により捕獲頭数が増加した。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | C | A | 農作物の被害額が減少した。小動物については、箱罠の貸し出しや実施隊による駆除、普及啓発活動により、農作物の鳥獣被害対策制度が市民に浸透し捕獲頭数が増加した。防護柵等の補助金の交付については、イノシシの一時的な頭数の減少が要因となり、設置の需要が少ないと考える。 |

## 5.今後の取組に向けて(Act)

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | ・野崎地区や佐久山地区でのイノシシの被害相談が増加している。<br>・ハクビシンやアライグマの被害相談が増加している。<br>・有害鳥獣被害対策従事者の高齢化や後継者不足が顕著である。<br>・ニホンジカによるの樹木への剥皮被害が確認されているので、被害拡大の抑制が必要である。<br>・クマ等の危険鳥獣に対する緊急銃猟実施体制の整備が必要である。 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | ・黒羽地区だけでなく大田原市全域でのイノシシの捕獲許可について検討が必要である。<br>・ハクビシンやアライグマ等の小動物の被害対策として、箱罠貸出し制度の周知を図る。<br>・地域住民の防除意識の向上に向けた普及啓発を実施する。<br>・有害鳥獣被害対策従事者の後継者育成につながるような施策の検討が必要である。<br>・ニホンジカの捕獲。<br>・緊急銃猟マニュアルを策定する。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | 野崎地区や佐久山地区でのイノシシの出没や被害相談により、有害捕獲の区域の拡大について検討が必要である。ハクビシンやアライグマの小動物の被害についての相談が増加、特にアライグマの被害が増加していることから、箱罠の貸出し制度により、住民自らの捕獲駆除について推奨していく。有害鳥獣被害対策としては、緩衝帯の整備や誘引物の除去が重要であるため地域住民の防除意識の向上に向けた普及啓発を継続して実施する。ハンターの高齢化問題について有害鳥獣被害対策従事者の後継者育成につながるような施策の検討が必要である。ニホンジカやツキノワグマの目撃情報により、ニホンジカの被害対策や、緊急銃猟マニュアルの策定が必要である。 |

# 大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

| 事業番号 | 284 | 評価年度 | 令和9年度事業 |
|---|---|---|---|
| 優先度 | A | シート区分 | 総合計画 |

## 1. 基本事項

| 事務事業名 | 森林環境整備促進事業費 | | | | | 計画 | おおたわら国造りプラン | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当名 | 部名 | 課名 | 係名 | | | | 計画での位置付け | No. |
| | 産業文化部 | 農林整備課 | 林業振興係 | | | 政策 | 政策3 次代につなぐ賑わいを創生する、魅力と活力あふれる産業のまちづくり | 3 |
| 予算科目 | 会計名 | 款・項・目 | 事業(大) | 事業(中) | 事業(小) | 施策 | (17)林業の振興 | 17 |
| | 一般会計 | 06.02.01 | 918 | 01 | 000 | 基本事業 | | |
| 事業期間 | □単年度 □複数年度 | | | | | ( 令和元年度 ～ 年度 ) | | |

## 2. 計画(Plan)

| | | |
|---|---|---|
| (1) 計画内容 | 対象 | この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。<br>森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律に基づいた、間伐等の「森林の整備に関する施策」と人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林の整備の促進に関する施策」 |
| | 目的 | 何のためにこの事業を行うかを記入します。<br>森林の有する公益的機能は、地球温暖化防止のみならず、国土の保全や水源の涵養等、国民に広く恩恵を与えるものであり、適切な森林の整備等を進めていくことが必要である。一方で、所有者や境界が分からない森林の増加、担い手の不足等が大きな課題となっていることから、適切な森林整備ができるように林業経営体制を整えていく。 |
| | 手段 | この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。<br>・森林経営管理事業による森林整備の実施<br>・新規林業就労者の雇用促進と資格取得による人材育成の支援<br>・森林教室等の環境教育イベント開催への支援<br>・木材利用の普及啓発を目的とした公共施設等への木製品の設置 |
| | 成果 | この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。<br>・適切な森林整備による森林の公益的機能の維持、増進。<br>・本市林業の活性化<br>・市民の森林に対する理解向上や木材利用の促進 |

| (2) 指標設定 | 指標内容 | | 指標名称 | 目標値の算出式(又は方法) | 目標値 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 活動指標 | 行政活動の結果からつくりだすもの | ① 森林経営管理事業の実施 | | 1 | 箇所 |
| | | | ② 調査の実施 | | 1 | 箇所 |
| | | | ③ | | | |
| | 成果指標 | 事業実施による最終的な成果・効果 | ① 木製品普及啓発事業 | | 1 | 件 |
| | | | ② 森林教室の実施 | | 1 | 回 |
| | | | ③ | | | |

## 3. 実行 (Do)

| | |
|---|---|
| (1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要 | ・森林経営管理制度の取組のひとつとして森林境界明確化事業を実施した。森林境界明確化事業後は、森林を集約化し高効率な施業の実施を目指し、林業事業体を含めて検討を行っている。<br>・木製品の普及啓発を目的として、大田原市産出材を使用したミニログハウス等の遊具を市内保育施設に設置した。また、木材利用促進として、大田原市産出材を使用したビアグラス等を製作し、ふるさと納税の返礼品とするなど地元事業者との連携を強めた。<br>・「森林の働き・森林資源の循環利用」をテーマに森林教室を開催し好評を得た。 |
| (2)備考 | |

| (3) コスト計算 | 内容 | 令和7年度 決算額 | 令和8年度 予算額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費計 | 62,973 | 44,157 | | | |
| | (c) コストの対前年比 | | 70.12% | | | |

## 4. 評価（Check）

| | 評価内容 | | | 評価点数 | 合計点数 | 妥当性評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) 妥当性評価 | ① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。 | 妥当性 | 高い・・・ 4 | 4 | 16 | a |
| | ② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。 | | やや高い・・・ 3 | 4 | | |
| | ③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。 | | やや低い・・・ 2 | 4 | | |
| | ④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。 | | 低い・・・ 1 | 4 | | |

| | 活動指標名 | 目標値 a | 単位 | 実績値 b | 指標の性質 | | 達成率 b/a | | 効率性評価 各指標評価 | 効率性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (2) 効率性評価 | ① 森林経営管理事業の実施 | 1 | 箇所 | 1 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | a |
| | ② 調査の実施 | 1 | 箇所 | 2 | 1 | 増加指標 | 200.00 | % | a | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | 成果指標名 | 目標値 c | 単位 | 実績値 d | 指標の性質 | | 達成率 d/c | | 有効性評価 各指標評価 | 有効性評価 指標全体評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (3) 有効性評価 | ① 木製品普及啓発事業 | 1 | 件 | 1 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | a |
| | ② 森林教室の実施 | 1 | 回 | 1 | 1 | 増加指標 | 100.00 | % | a | |
| | ③ | | | | | 算定不可 | | % | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (4) 担当課評価 | 前年度記載今後の取組(修正、改善等) | ・森林整備における必要な支援を見極めて、新たな事業の創設を検討していく。<br>・木材普及啓発事業の更なる促進(新規事業の立上げや既存事業の発展)<br>・カーボンニュートラルやネイチャーポジティブなどSDGSへの関心が高まっているこの機会に、森林の働きや森林資源の循環利用についてPRすることにより、木材利用促進に取り組んでいく。 | |
| | 前年度からの改善結果 | 改善した | ・林業経営体へのヒアリングを実施し、森林整備に係る支援の把握に努めた。<br>・市産出材の家づくり支援事業費補助金を創設し、木材の利用促進を図った。<br>・森林の持つ機能や循環利用への理解を深めるため、森林教室を開催し、普及啓発に努めた。 |
| | 評価表からの評価 | 担当課評価 | 評価の理由等 |
| | A | A | ・活動及び成果指標に掲げた目標は全て達成した。<br>・現場の実態や課題を把握し、新たな補助制度を創設した。 |

## 5.今後の取組に向けて(Act)

| | |
|---|---|
| (1) 事業実施上の課題等 | ・森林境界明確化事業により把握した林業経営に適さない山林について、経営管理制度の活用までに時間を要している。<br>・森林環境譲与税の基金積立額が年々増加している。 |
| (2) 今後の取組(修正・改善等) | ・森林境界明確化事業の完了後速やかに経営管理制度活用につなげる実施体制の構築が必要。<br>・森林環境譲与税について、他自治体の事例や庁内の活用可能な事業の把握に努め、積極的な有効活用に努める必要あり。 |

## 6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

| 実施日 | 最終評価 | 今後の取組(修正・改善等)【最終結果】 |
|---|---|---|
| 令08.07.16 | A | 事業の実施により、本市の森林環境の整備に一定の効果があったと評価できる。<br>森林境界明確化事業の完了後、速やかに森林経営管理制度(集約化・高効率な施業)の活用へ移行できるよう、林業事業体等との連携強化に努める必要がある。<br>基金積立額が増加傾向にある森林環境譲与税については、他自治体の先進事例や庁内における活用可能な事業を精査し、積極的かつ有効な事業展開に努める必要がある。 |